

慣れないからだを揺らして

落葉は白さに覆われて

もつとうまく歩けるだろうと

言おうとしたときにはもう息が

できるようになっていて

もみの木だと思っていたものは

湖で割れた氷の板で

白さにぬかるんだ足を

抜きながら進むわたしの肩は

なんだかとてもうれしそうだった